

生産現場を変える力に！ 3Dプリンタ活用の可能性

～生産に係る自動化・省力化設備の提案とFA部品のリユース事業を展開～



株式会社 エフ・アイ・ティ

代表取締役

古田 貴士氏

- 住 所：各務原市鵜沼各務原町7-64
- T E L：058-370-4003
- U R L：<https://3fit.net/>
- 事業内容：各種生産設備機械の設計・製作／自社製品の開発・販売／FA機器リユース事業「FA機器.com」の運営／3Dプリンタの販売・技術サポート
- 従業員数：40人（2023年11月時点）

■ 27歳で独立— 自分で製品を発信したい

聞き手：まず御社の事業内容についてお聞かせください。

古田社長：メインの事業は、生産設備の設計製作とFA部品のリユース事業の2つです。

世の中にはいろいろな製造業がありますが、どこかの業界に特化するのではなく、自動車関連から医療、刃物、日用品に至るまで様々な業界に対して、生産現場の自動化・省力化の設備を提案しています。

FA部品のリユースについては、2008年、まだ世の中に産業機械のリユースが定着していなかった頃に始めて、現在も続けています。

聞き手：生産現場も人が不足する時代で、自動化・省力化で生産性を高めていくことが必要ですね。HPを拝見すると、ロボット関連も含め様々な認証を取得されています。やはりロボットの導入が主流でしょうか？

古田社長：もちろんロボットが適するケースもありますが、「なんでもロボットで」は反対でももちろんロボットが適するケースもあります。

ですがまずはロボット以外にも設備の工夫はできますから、その中で最適な機構を考えることが大切ですね。

聞き手：なるほど、その前の段階から考える必要があるんですね。では次に、御社の歴史や、企業発展における転換点についても教えてください。

古田社長：2001年、私が27歳の時に独立して一人で始

めました。そこから一人、また一人と増えていったのですが、まだ数人の頃にリーマン・ショックがあり、取引先のトラブルも重なって、一気に仕事がない状況になってしまったんです。そこで商工会議所の方に相談し、経営コンサルタントを紹介していただいて。その人とやり取りをしていく中で、潜在的に持っていた気持ちを引き出してもらうことができました。それは、もともと「自ら製品を作って提案したい」という思いがあったから起業したんだ、ということです。

そこからは、「エフ・アイ・ティだから作れる」という方向に振り切って、それこそ当時はセグウェイみたいなものも作ってたかったので開発をしたり、その組立キットを販売したり。30代の頃は様々な挑戦をしましたね。同じタイミングでFA機器のリユース事業も始めたことで、そちらで資金を賄うこともできるようになりました。これが一番のターニングポイントになりましたね。

■ 3Dプリンタに感じる可能性

聞き手：HPを拝見すると、幼い頃から様々なものづくりに挑戦されてきたそうですが、今は3Dプリンタも活用されているんですね。

古田社長：今ものづくりを続けているのは、やっぱり面白いからという部分が強いですね。どこでもできる技術で価格交渉をするよりも、他社ができないことに挑戦したいと常々考えています。

3Dプリンタを最初に導入したのは10年以上前で、安価なモデルでした。本格的に導入したのは3年程前です。例えば航空宇宙関連の業界では既に、当たり前のように金属の3Dプリンタが導入されています。例えば機器とトナーさえあれば、空母の中でも部品調達ができてしまう。時代



(左写真)

FA機器のリユース事業では、学生や先生を対象に中古機器を譲る「FAフェス」を年1回開催。処分せざるを得ない部品を無料でもらえるとあり、自分の研究に活かしたい学生が遠方からも訪れている。

(右写真)

「宇宙海賊キャプテンハーロック」のオマージュで制作されたポスター。

の流れを見るに、今後は旋盤やフライス盤にも匹敵する存在になっていくのかもしれない。

とはいえ、まだ世界的にも3Dプリンタは開発や試作の段階で使われることが多く、最終製品に使われることはレアケースです。そんな状況ですが、当社では自社商品のロボットハンドを3Dプリンタで作って世界に売っていきたいと考えています。ロボットメーカーは、ハンドまで作らないのと、ハンドメーカーは、まだ少なく、カスタムオーダーできるハンドは作ってないからです。

聞き手: 着眼点が面白いですね。

古田社長: 導入に際しては、もちろん設計力だとか、プリントに向けたデザインができるかといった条件はありますが、当社は積極的に取り入れることで「製造業の第一線で活用しているんです」という先端事例として、説得力を持って取り組んでいきたいと考えています。おかげで、海外のロボットメーカーからはぜひ代理店になってほしいと言ってもらえました。

生産現場に導入すれば、例えば治具やパーツをプリントして使うことが可能です。それらを消耗品と考えるか耐久性を重視するかといった考え方にもよりますが、部品の内製化による現場の改善策として提案を始めています。もちろん導入された現場には、プリントするパーツ等のデザイン・設計面でもサポートをしています。

聞き手: 人材教育についてもぜひお聞かせください。

古田社長: そこは本当に難しいです。特に技術系の人材育成が一番の課題です。2年程前からは、支援の手も借りながら10年後に向けたビジョンを作成して、人づくりと企業成長の両方を盛り込んで取り組んでいます。

私も経験したから分かるのですが、技術系の人材が大手に就職して「こういうことをやりたい」と考えても、大抵は却下されてできないんです。私はそれで起業したわけですが、だから学生さんたちには、せっかく就職するのなら、うちの最先端の設備を使って自分のやりたいこと、新しいことに挑戦してみませんかと言いたいですね。ゆくゆくは独立しても良い。当社の設備と独創的なモノづくりができる環境で、同じ志を持つ仲間同士、共に仕事をしていけたら理想的だと思います。

■ “自分で考える力”を育てていきたい

聞き手: サラリーマンとして生きてきた身からすれば、やりたいことも制限だらけですからね。羨ましいです。

古田社長: ものづくりの世界って、考えて作ってもうまくいかないこともあって。じゃあどうクリアするかと考えて、それを繰り返していく中で良いものができ上がります。そうした問題発見力はどんな作業にも必要で、さらに言えば、人から言われたことを遂行するだけでなく、自分なりの工夫や考えがあるともっと良い仕事になっていきます。指示や目標にとらわれすぎることなく、自分で考える力をどんどん鍛えていってほしいです。

今は調べれば答えが見つかる時代です。ですが、物事を見る時に「なんでこうなっているんだろう?」と自分で問いを立て、調べる前に自分で理由や答えを考えることで、自ら生み出す創造力が身に付きます。

調べるだけでは、一生誰もやってないことにたどり着けないので、そういうマインドを、社員にも浸透させていきたいですね。

聞き手: では最後に、休日の過ごし方や趣味についても教えてください。

古田社長: 出張に結構行きますので、美味しい食事やお酒のことを某グルメレビューサイトに書き込んでいます。とにかく新しいものが好きであまり長続きしない性格ですが、これだけは10年くらい続いていますね。

聞き手: 美味しいものは大事ですね。実は先程から、御社のポスターが気になっているのですが。

古田社長: 映画「キャプテンハーロック」のポスターがもたになっています。松本 零士先生の作品とその世界観が大好きで。起業したいという想いのきっかけも、“自分の船”や“一国一城の主”のようなイメージがあったからかもしれません。「我々に創造できない装置はない!」と言えそうな仕事をしていきたいですね。

聞き手: 本日は貴重なお話をありがとうございました。

聞き手 (一社)岐阜県経営者協会 広報部会委員

東海ダイカスト工業(株)

取締役営業部長 **田中 豊**

経協ニュース

労働部会を開催

2月27日(木)グランヴェール岐山にて開催し、林 一成労働部会長(日建ホールディングス㈱ 代表取締役社長)ほか13人の委員にご参加いただきました。

事務局より2024年度の事業実績を報告した後、2025年度の事業計画(案)について説明を行いました。

その後、今後の労働事業の取り組みについて委員の皆様よりご意見をいただき、各社の人事労務に関する課題や、またそれらに関するセミナーの開催案等、今後の人事労働問題解決の為の様々なご意見を頂きました。



岐阜市立女子短期大学共催「学内合同企業説明会」を開催

2月27日(木)岐阜市立女子短期大学と共催で、2026年3月に卒業予定の学生を対象とした「学内合同企業説明会」をターム制にて開催し、企業13社、学生33名にご参加頂きました。

大学の長期休暇中での開催の為、学生は任意参加でしたが、就活本番前ということもあり、意欲の高い学生が多く、最後のタームまで多くの企業を訪問していました。参加企業の採用担当者からの説明をメモをとりながら熱心に聞く姿が見られました。



新入社員フォローアップ研修を開催

3月4日(火)講師に、Office Ichihara 市原 由香子氏をお招きし、昨年4月に入社した新入社員を対象に開催しました。会員企業9社より36人の方にご参加いただきました。

入社後1年の節目を迎え、社会人として出来るようになったことを振り返るとともに、これから自立型人財として自社の戦力となるために、2年目以降のビジョンと具体的な行動とのコミットメントを考える内容といたしました。

途中、グループ討議やワークショップもふんだんに交え、実際に行動しながら、最後に1人1分で自立型人材になるための実行宣言をしていただきました。



求人・雇用部会を開催

3月6日(木)グランヴェール岐山にて開催し、小林 領司求人雇用部会長(㈱電算システムホールディングス 代表取締役社長)ほか11人の委員にご参加いただきました。

事務局より2024年度の事業実績を報告した後、2025年度の事業計画(案)についての説明を行いました。

その後、今後の求人事業の取り組みについて委員の皆様よりご意見をいただき、就活の早期化への対応や、合同企業説明会への学生動員、高校生の採用支援について等、採用活動について様々な意見を頂きました。

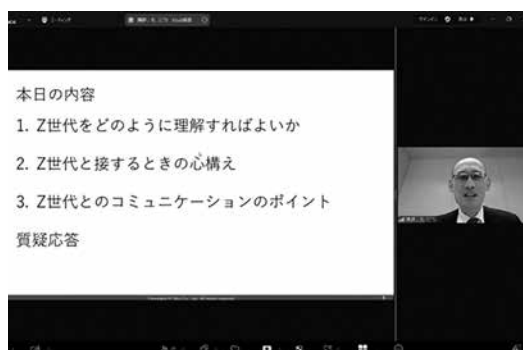


人事・労務担当者オンラインセミナーを開催

西濃支部

3月4日(火)、オンラインにおいて開催し、19社、25名の方にご参加いただきました。

講師にはアルー株式会社より孔令愚氏をお招きし、「人材育成・定着に繋がるZ世代とのコミュニケーション」と題し、「Z世代との信頼関係をどう構築していくのか」「育成や接し方のポイント」について具体的な事例も交えながらご講義をいただきました。受講者からも参考になった、業務に活かしていきたいといった感想もいただきました。



事務局会議を開催

各務原支部

3月5日(水)岐阜車体工業(㈱) 会議室において開催し、6名の委員にご参加いただきました。

議題としては、前回(2月7日 開催時)セミナーについて、当日の進行や事務局としての動きについて振り返りと、その後は次年度への支部活動方針などについて話し合い、今後の各務原支部活動をより活発にしていくにはどうすれば良いのかをテーマとして話し合いを行いました。

2025年度の予定については、内容が確定次第に支部会員様へご案内させていただきます。



人事・労務担当者セミナーを開催 西濃支部

3月11日(火)ソフトピアジャパンセンターにおいて、40名の方にご参加いただきました。

講師には、社会保険労務士法人アコール 代表 浅野 りよ子氏(全国社会保険労務士会連合会 BHR推進社労士)をお迎えし、「ビジネスと人権～すべての企業が関係します～」をテーマに、分かりやすく解説いただきました。

参加者からは「『人権』と聞くとイメージし難いが、安全・労務・従業員に関するルール全般なのだとセミナーを聞いて感じた。」「なぜビジネスの人権がすべての企業に必要なかは、自社で完結する問題ではなく取引関係を含めて対応が必要であると感じた。」など多くの感想をお寄せいただきました。最後に事務局である西濃運輸の取り組み状況の案内もあり、大変好評なセミナーとなりました。



開催案内

●中部3県経営者協会 オンデマンド配信サービス

テ ー マ カスハラ対応のポイント ～NG集・企業の対策～

第1部…カスハラとは何か、何が問題なのか

ありがちなNG対応例

第2部…企業の講じるべき対策

第3部…業種別にみるカスハラ対策

視 聴 方 法 経営者協会ホームページより、「会員専用」→「動画コンテンツ」でご視聴ください。
(会員専用パスワードがご不明の場合は、下記連絡先にお問い合わせ下さい。)

TEL : 058-266-1151 メール : jmk@gifukeikyo.org

新規会員 の ご紹介

中濃支部

■ 株式会社東洋化学

設 立 1977年5月31日

所 在 地 関市下之保4927番地2

代 表 者 代表取締役 佐藤 茂樹

事業内容 再生プラスチック原料の製造・販売



人と経営 4月号

(第74巻4号通巻571号) (2025年4月1日発行)

■編集発行人

広報部会長 堀 部 友 里

■発行所

一般社団法人 岐阜県経営者協会

〒500-8833 岐阜市神田町2-2 TEL 058-266-1151 URL <https://gifukeikyo.org/>

■印刷・製本

株式会社印刷工房 〒501-0597 岐阜県揖斐郡大野町下磯750-1 TEL 0585-36-0201